

引込用腕金

1. 適用範囲

この規格は引込線の家屋側支持点に取付ける引込用腕金に適用する。

2. 種類

引込用腕金の種類は下記の6種とする。

| | | |
|-------|-------|------|
| 直1線用 | 直2線用 | 直3線用 |
| T形2線用 | T形3線用 | L形 |

3. 材料

材料はJIS G 3101「一般構造用圧延鋼材」の第2種(SS-41)に適合する等辺山形鋼(30×30×3mm)とし、キズ、サビ、サケメなどの欠点がないものとする。

4. 構造

4.1

形状および寸法は付図1,2,3による、寸法の裕度は下記による。

| | |
|-----------------|-----------------|
| 厚さ ±10% | 厚さ ±10% |
| 巾 ±1.5mm | 巾 ±1.5mm |
| 長さ ±1.0mm -0mm | 長さ ±1.0mm -0mm |
| ボルトおよび穴径 ±0.3mm | ボルトおよび穴径 ±0.3mm |
| 穴中心位置 ±2mm | 穴中心位置 ±2mm |

4.2

腕金は工作後全面一様に溶融亜鉛メッキを施した見易い箇所に容易に消えない方法で製造者略号を明示しなければならない。

4.3

L形腕金には必要により、ストラップおよびボルトを付する。

ただしボルトの製造者表示は省略してもよく、またネジはJIS B 0205「メートル並目ネジ」によりメッキは電気亜鉛メッキでよい

5. 検査

5. 1

構造、外観、寸法などを検査し、いずれも良好でなければならない。なお、ボルトのネジ精度は JIS B 0209「メートル並目ネジの寸法差および交差」の 3 級に適合しなければならない。

5. 2 亜鉛メッキ試験

亜鉛めっき試験は、JIS H 0401（溶融亜鉛めっき試験方法）5. 付着試験方法に規定する間接法または磁力式厚さ試験（任意の位置を 5 箇所以上測定）によって行ない、亜鉛めっき試験を行ったとき、付着量は 450g/m² 以上とする。

5. 3 強度試験

腕金を水平にして堅固に取り付け、各碍子ボルト穴に付図 4 のとおり、荷重を吊り下げて 5 分間以上耐えなければならない。

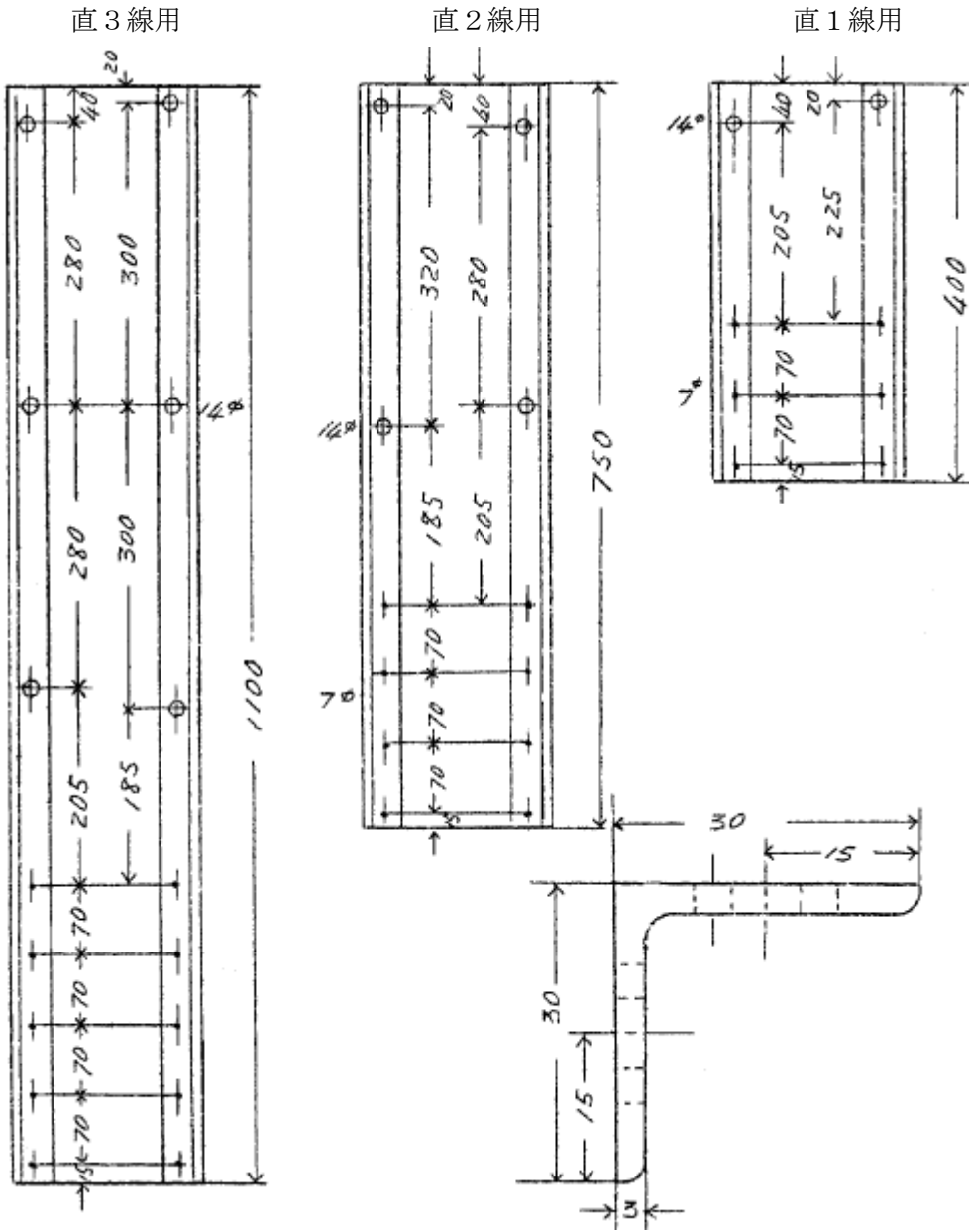
（参照規格）

JIS G 3101（一般構造用圧延鋼材）

JIS H 0401（溶融亜鉛めっき試験方法）

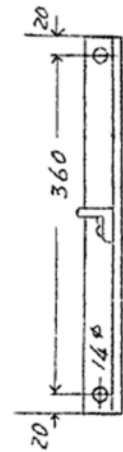
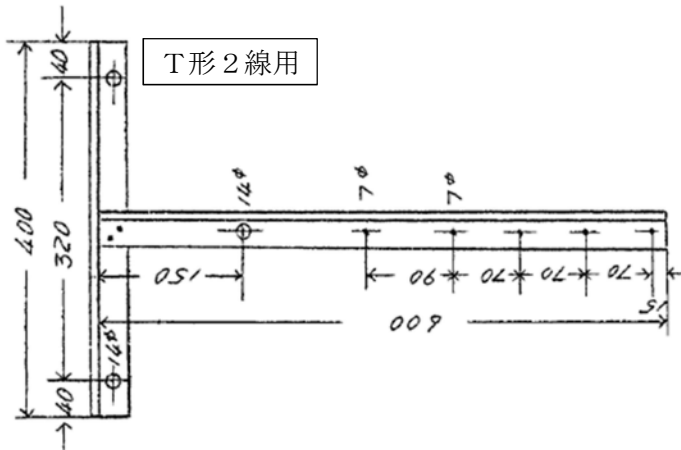
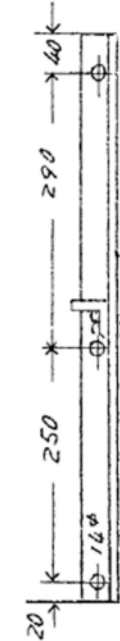
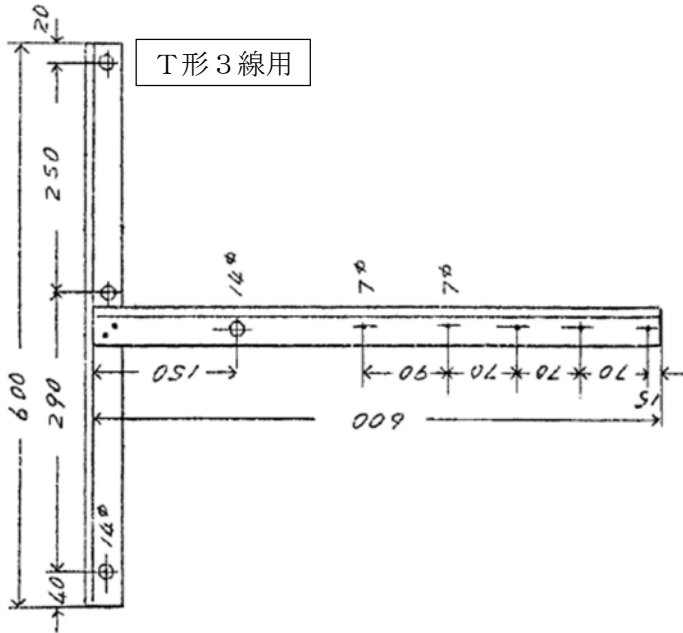
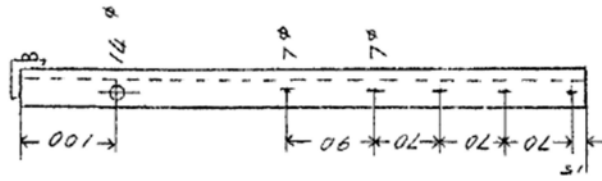
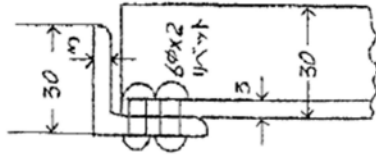
付図1

(単位：mm)



付図2

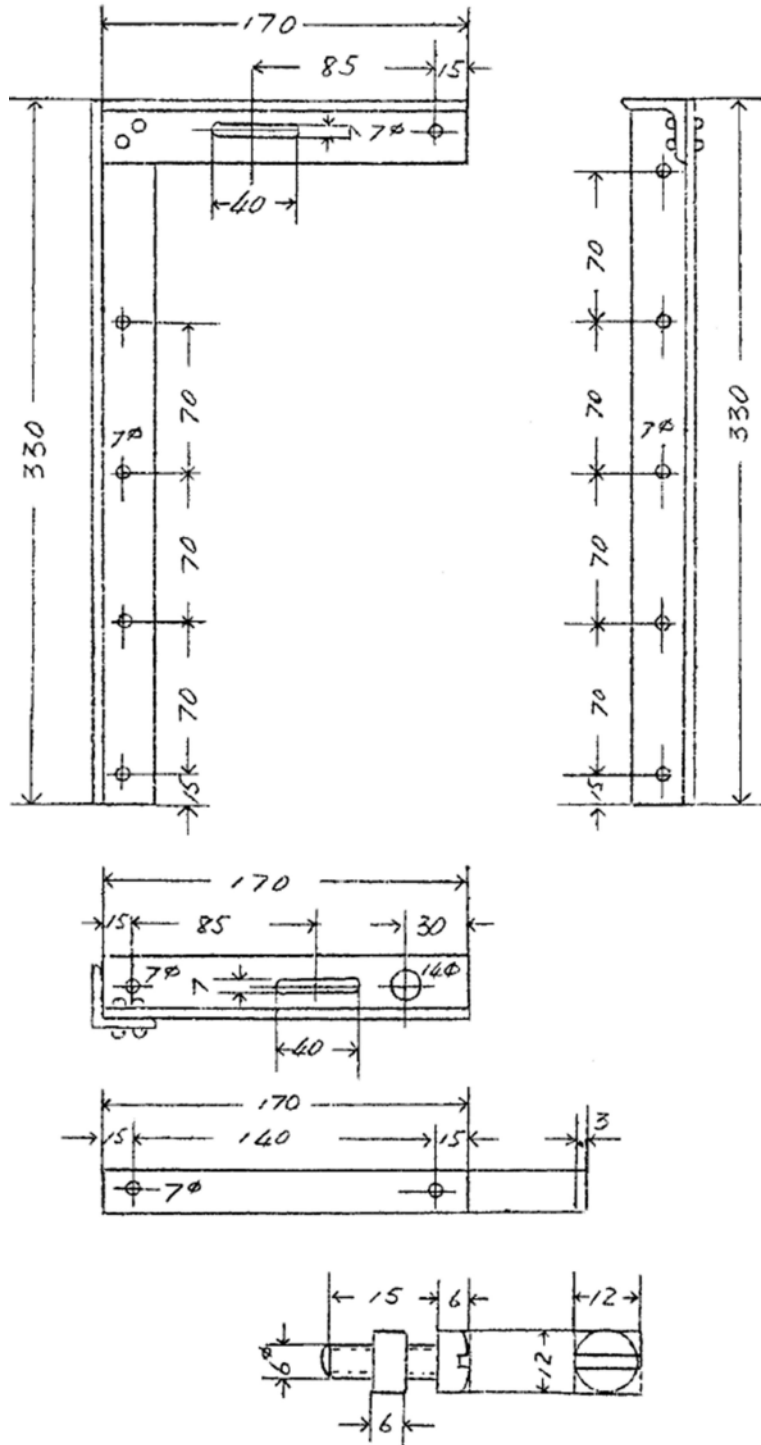
(単位：mm)



付図3

(単位：mm)

L形用



付図4

腕金強度試験方法

